

【表題】 操縦訓練のための姿勢記録装置と飛行再現システムの構築【調査報告】

【著者】 瀬川 陽、竹之内 修

【発表】 航空大学校研究報告 R-63

【時期】 2010年11月

【概要】

航空大学校が訓練に使用しているビーチクラフト式 A36 型機（以下、訓練機と記す）の飛行中の姿勢や位置はコックピット内に設置されている各種計器群により把握することができる。しかしその値は記録されないため、飛行後どのような飛行姿勢であったかを操縦者が正確に記憶することは困難となる。

民間旅客機には機体の状態を記録しておく装置があり安全運航や機体整備などに活用されている。一方、航空大学校の訓練機においてはそのような装置の装備義務はないが、訓練飛行で機体の状態を記録したデータが得られると定量的に操縦を判断でき、操縦訓練に生かせる可能性も出てくる。

そこで著者らは訓練機に搭載可能な可搬型の姿勢記録装置とその記録データを処理する飛行再生システムを構築したことを報告する。そしていくつかの操縦訓練科目に対して、本装置を利用することで飛行姿勢および飛行経路を捉えることができた一例を紹介する。